

危機対応の人権基準から平時の人権を考える 観光と校則に着目して

飯田周平、杵渕稜

専門ゼミ（工学部 環境・社会基盤工学科 中村秀規 研究室）

スフィア基準

紛争や難民支援において国際的に活用されている世界基準「スフィア基準」。

日本でも災害時に参考されるようになっている。

たとえば避難所でのトイレ設置において「人びとは十分な数の、適切かつ受け入れられるトイレを安心で安全にいつでもすぐに使用することができる。」という基準を満たすために「女性用のトイレは男性用よりも3倍に」というガイダンスノートを設けるなど、災害時であっても多様な人々が尊重されるように基準が整理されており、日常社会においても“誰にとってもやさしい社会”を実現するヒントになる。

協働相手

PECとやま・世界共通目標SDGsを達成するため、富山県の市民団体、企業、大学、個人等のメンバーが集まって結成したローカルプラットフォーム。



スフィア基準を学んだうえで私たちが思う校則と観光業の課題とは？

SDGs全国ダイアログリレー@富山

講師：佐久間 隆 氏

スフィア・トレーナーでNGOや国際機関で人道支援事業に従事。多くの国で活動。

「SDGs全国ダイアログリレー」は、2023年から始まった「NPOのSDGs全国調査プロジェクト」の最終年度にあたる2025年度に、全国8カ所で開催されている取り組みである。

全国各地で市民・企業・行政などが集まり、地域の課題とSDGsについて対話し、その学びや取り組みを地域間で共有してつないでいる。対話を通じて協働を促し、SDGsを地域社会で実践することを目的としている。



実際に参加した様子

校則をスフィア基準で考える 杵渕稜

	ブラック校則	子ども基本法	子どもの権利条約	関連するスフィア基準のコミットメントの番号
撤廃・見直しすべき校則	大勢の前での名指しによる叱責	人権、尊厳の侵害 不利益扱い	プライバシーの権利 精神的苦痛からの保護	①, ③
	クラス全体での連帯責任	最善の利益違反 不利益扱い	差別の禁止 子どもの最善の利益	①, ⑥
グレーゾーンの校則	部活動への強制入部	意見表明権の侵害	意見表明の権利 文化的・芸術的生活に自由に参加する権利	④
	制服の着用義務	子どもの人格・個性の尊重 子どもの最善の利益	意見表明の権利 プライバシーの権利	①, ④, ⑥

課題

- ・校則が子どもの権利を前提に作られていない
- ・多くの校則は管理や統制を目的としており、子ども基本法や子どもの権利条約が十分に考慮されていない
- ・子どもたちが校則の目的を理解していない
- ・子どもたちが校則を決められたものと受け入れてしまっている
- ・校則について話し合い、自分たちで決める機会がほぼない
- ・異議を唱えることが問題行動とされてしまう



これからどうしていくべきか

- ・ブラック校則の問題で重要なのは、校則をなくすことではなく、子どもの権利を基準に校則を考えること。そのためには、校則の目的を明確にし、子どもに不利益が大きすぎないかを検討すること、そして校則の見直しに子ども自身が参加できる仕組みをつくることが不可欠。
- ・子どもを「管理される存在」ではなく、「権利を持つ主体」として捉え直すことが、これからの学校づくりにおいて最も重要であると考える。

観光業の問題をスフィア基準で考える 飯田周平

観光業の課題

1. 地域住民の視点：騒音やポイ捨て、マナー違反によって生活環境が悪化する
2. 観光客の視点：混雑や情報不足、制限により、安全で快適な観光がしにくい
3. 民間企業（観光サービス業）の視点：利益の確保と住民・環境への配慮の両立が難しい
4. 行政の視点：観光振興と住民生活・環境保全のバランス調整

スフィア基準（「人道支援の質と説明責任に関する必須基準」）のコミットメントを用い1.の問題について考える（脆弱な人々を地元住民と仮定）

- コミットメント①：意思決定に参加できる→ 地域住民と行政（と観光客）の話し合いの場
コミットメント④：環境に害を及ぼさない支援→ エコツーリズム
コミットメント⑤：懸念・苦情を安全に伝えられる→ 目安箱

コミットメントを用い2.の問題について考える（脆弱な人々を観光客と仮定）

- コミットメント①：意思決定に参加できる→ 観光客と行政（と地域住民）の話し合いの場
コミットメント④：環境に害を及ぼさない支援→ エコツーリズム
コミットメント⑤：懸念・苦情を安全に伝えられる→ 目安箱、アンケート

これまでに実施された対策例

- ①に対して：北海道・美瑛町のシンポジウム
↳ 住民、行政、観光客でオーバーツーリズムや農地への観光客の侵入等の課題について話し合った。
- ④に対して：西表島（沖縄県）
↳ 自然環境に配慮したツアーを実施。自然の魅力や価値を伝えることで自然環境保護の意識向上を図っている。
またツアー等のお金は自然環境の保全や管理に還元。
- ⑤に対して：京都市
↳ 京都市の公式サイトで観光客専用バスを提案する意見が提出され、京都市はその意見を受け「観光特急バス」として実際に策が講じられた。

まとめ

観光業はスフィアの視点から見て多くの問題があることがわかった。しかしそれらの問題はすでに対策されているものがほとんどだった。観光業は事例も多く、その分対策もすでに多く講じられているのではないかと考えた。旅館等の民間企業は問題解決のために地域と協力する形をとった利益と住民・環境への配慮のバランスを取っていくべきだと考えた。行政は住民・観光客・民間企業のすべての問題を解決していくかといけないので負担が大きくなっていることも問題だと感じた。



スフィア基準（「人道支援の質と説明責任に関する必須基準」）の9つのコミットメント

取り組みで得た学び



これまで当たり前だと思っていた学校の指導や校則の多くが、実は学校が介入してよい範囲を超えていた可能性があることに気づいた。スフィア基準は、もともと災害時の人道支援において「支援する側が人の尊厳や私生活に踏み込みすぎないための境界線」として使われてきた考え方だが、この視点を学校に当てはめることで、学校の役割を改めて考え直すことができた。



今回スフィア基準で観光業の問題について考えて、スフィア基準は平時の問題を見つけるのに使えることが分かった。またダイアログリレーではスフィアについて分かりやすい説明を受けただけでなく様々な人と問題について意見を交換出来て参考になった。